

村上隆のスーパーフラット・コレクション —蕭白、魯山人からキーファーまで—

2016年1月30日(土)~4月3日(日)

横浜美術館



村上隆とスーパーフラット・コレクション 撮影：平尾健太郎

横浜美術館では、2016年1月30日(土)から4月3日(日)まで、現代日本を代表するアーティスト、村上隆(むらかみ たかし)(1962年生まれ)の現代美術を中心とするコレクションを初めて大規模に紹介する展覧会「村上隆のスーパーフラット・コレクション—蕭白、魯山人からキーファーまで—」を開催いたします。

村上隆は、東京藝術大学にて日本画初の博士号を取得。現代美術と日本の伝統絵画、ハイカルチャーとポップカルチャー、東洋と西洋を交差させた極めて完成度の高い一連の作品で世界的に評価され、海外の著名な美術館で数々の個展を開催してきました。

アーティストとしての精力的な創作の一方で、村上隆はキュレーター、ギャラリスト、プロデューサーなど多岐にわたる活動も展開しています。特に、近年、独自の眼と美意識で国内外の様々な美術品を積極的に蒐集し続けており、その知られざるコレクションは、現代美術を中心に日本をはじめとするアジアの骨董やヨーロッパのアンティーク、現代陶芸や民俗資料にまで及んでいます。村上隆にとって「スーパーフラット」とは、平面性や装飾性といった造形的な意味のみに限定されるのではなく、時代やジャンル、既存のヒエラルキーから解放された個々の作品の並列性、枠組みを超えた活動そのものを示しており、「芸術とは何か?」という大命題に様々な角度から挑み続ける作家の活動全体(人生)を包括的に表す広範かつ動的な概念と捉えられるでしょう。

■展覧会の構成と見どころ

約 5,000 点以上、現在も増え続けている村上隆の美術コレクション。

既存の基準やヒエラルキーを超えて、独自の美意識と価値観で選ばれた作品・オブジェ群の一部約 400 点を、地域や流派といった既存のカテゴリーをとりはらい、感覚的あるいは機械的に並列することで「スーパーフラット・コレクション」の意味について考えます。

* 以下の構成案は 2015 年 12 月現在のものです。出品作家・作品は変更する場合がございます。

彫刻の庭

村上隆にとってコレクションとは「限界への挑戦」でもあります。美術館エントランスの大空間、グランドギャラリーでは、大型彫刻やインスタレーションが林立し、観客を迎えます。資本主義と芸術の拮抗、欲望と芸術の関係が不確定なものに金銭を出すという行為について問いかけます。

アンゼルム・キーファー/マウリツィオ・カテラン/張洵 (ジャン・ホアン) /奈良美智 ほか

日本・用・美

ここでは、日本を中心とする東洋陶磁や近代陶芸の優品、江戸期の絵画や史料類が整然と陳列されます。生活の中の日本美、その淵源のひとつとしてのヨーロッパの雑器まで、美の根源を探索する村上隆の眼差しをたどります。

曾我蕭白/白隠慧鶴/仙厓義梵/北大路魯山人/川喜田半泥子/縄文土器/李朝陶磁器/スリッパウェア ほか

村上隆の脳内世界

グラフィティ絵画からアンティーク家具、陶製のビールジョッキやペタンクの玉まで、ありとあらゆるものがカオティックに展示された、「玉石混交」かつ「ノーロジック」な世界。村上隆の脳内を覗くような不思議な体験空間です。

アンティーク家具/雑貨/絵画/オブジェ ほか

スタディールーム&ファクトリー

美術教育、歴史、価値の創造（あるいは捏造）、価値の成立（メカニズム）、労働と対価について、参加型の作品や映像インスタレーション作品を通して考察します。

デイヴィッド・シュリグリー/ミカ・ロッテンバーグ

1950-2015

村上隆のコレクションの主要な柱である 1950 年代から現在までの国内外のアート作品をほぼ制作年に沿って機械的に展示します。戦後から今日にいたるまでのこの時間枠は 1962 年生まれの村上隆の生きてきた時間でもあります。これらの作品を通じ、村上隆の幼少時代の原体験や若き日に受けた影響だけでなく、既存の美術の流れとは異なる村上独自の美術史の文脈についても考えます。

ヘンリー・ダーガー/アンディ・ウォーホル/荒木経惟/篠山紀信/ホルスト・ヤンセン/李禹煥/川俣正/ダグ&マイク・スターン/ホルト・ケンテル/大竹伸朗/ステイヴン・パリーノ/アンゼルム・ライラ/ガブリエル・オロスコ/グレイソン・ペリー/マルティン・ホナート/マーク・グロッツマン/ダミアン・ハースト/フリードリッヒ・クナス/ヒュー・スコット=ダグラス/菊畑茂久馬/谷口真人/吉村大星/畠山直哉/竹内公太/ワリード・ベシュティ/ジャン=リュック・ムーレーヌ/フランク・ベンソン/ゾエル・アンド・ベルベット ほか

会期	2016 年 1 月 30 日 (土) ~ 4 月 3 日 (日)
休館日	木曜日 ※但し 2016 年 2 月 11 日 (木・祝) は開館
開館時間	10:00~18:00 (入館は 17:30 まで)
主催	横浜美術館 (公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)、日本経済新聞社
後援	横浜市
協力	みなとみらい線、横浜ケーブルビジョン、FM ヨコハマ、首都高速道路株式会社